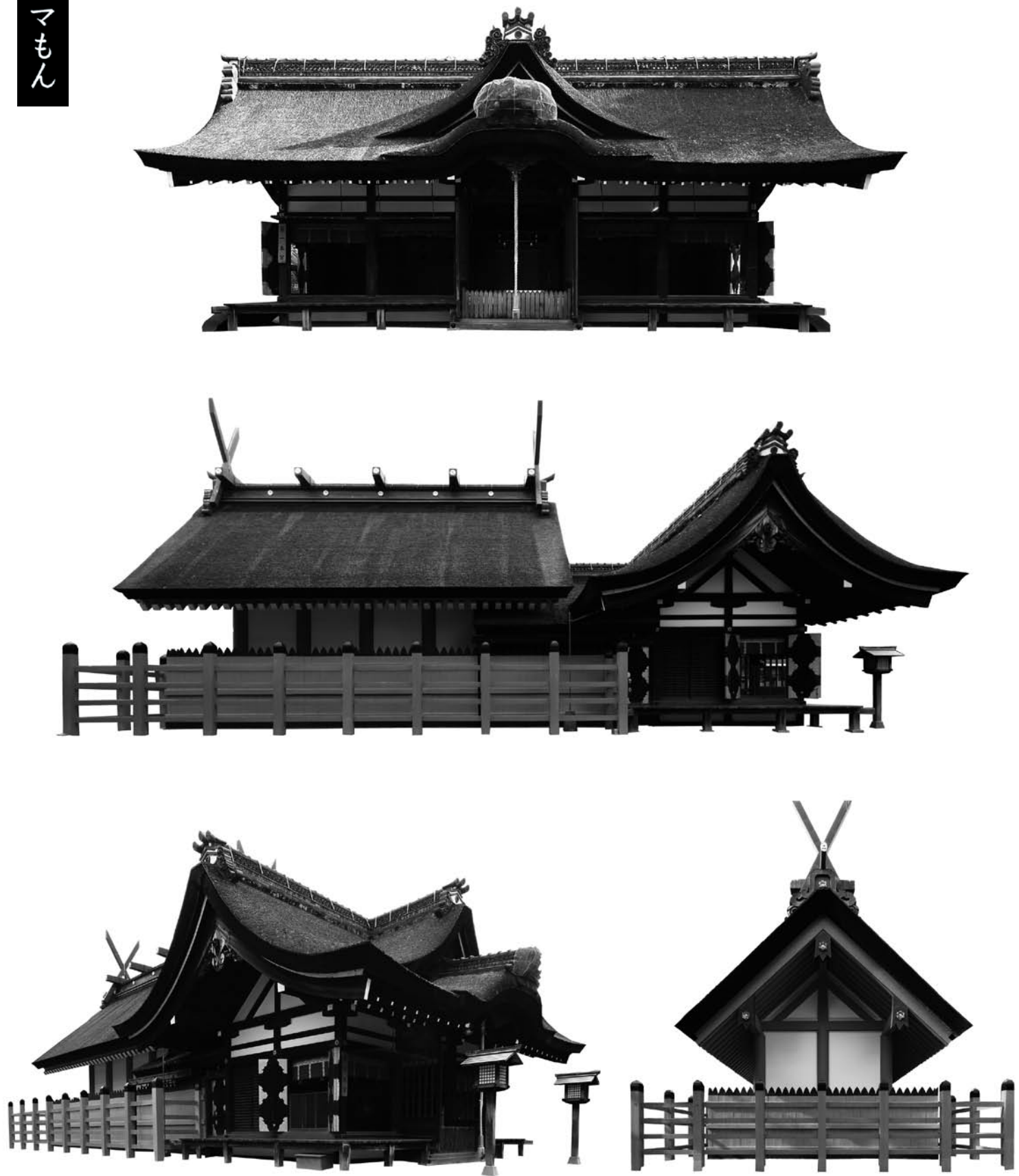


建築人

1

2014



建築人

1
2014

目次

大阪ホンマもん

建築人

「建築人（けんちくびと）」編集人座談会

記憶の建築 松隈洋

国立競技場 1958・64年 歴史を目撃したスポーツの聖地

Gallery 建築作品紹介

クーリア本社ビル

設計 藤木工務店大阪本店

施工 藤木工務店大阪本店

京都市成長産業創造センター

設計 日建設計

施工 銭高組

清風南海学園キャンパス整備事業

設計 日建設計

施工 清水建設

風の子保育園

設計 井上久実設計室

施工 日本建設

立命館大学 京都衣笠体育館

設計 竹中工務店

施工 竹中工務店

ひろば 建築構造案内

榊田洋子

建築の射程 近角真一

NEXT21 フェーズⅣ サステナブルデザインの源泉

インフォメーション・事業案内

理事会報告 建築相談 編集後記

年頭所感

（公社）大阪府建築士会会長 岡本森廣



新年明けましておめでとうございます。

本会は、平成二十五年四月一日に公益社団法人の認定を受けて以来、資格者団体としての建築士の自己研鑽のサポートはもとより、これまで以上に社会・府民に向けての地域貢献事業に目を向けた施策に力点を置き、具体化の活動を推進しております。

府民の生命及び財産を保護するために、建築物の耐震診断の判定、応急危険度判定士のネットワークの構築、消費者からの身近な建築相談など、建築士と府民の距離を縮める努力を重ねております。

本会の重点施策である建築士のスキルアップと府民の身近な問題への取組みが相乗効果を生み出して、本会がより大きな社会貢献活動の核となるべく公益目的事業を拡大かつ活性化してまいります。

本年も会員の皆様にとって更なる飛躍の年になることを祈念いたします。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪の初詣の代表と言えるのが住吉大社。三が日の参拝者数は二三五万人ともいわれ、今年も、幸せを願い参拝するのである。

全国約三三〇社余りの住吉神社の総本社でもある住吉大社は、摂津国一の宮として古くから信仰され、禊祓の神、海上安全の神などとして崇敬されてきた。本殿の建築様式である住吉造は、神社建築史上最古の様式の一つ。現在ある本殿は全て、文化七年（八一〇年）に造られたもので、四棟ある本殿全てが西向きというのは珍しい。これは大阪湾を意識したものと考えられるかもしれない。いずれも昭和二八年に国宝建築物に指定されている。

昔から住吉大社は式年遷宮の伝統を守り続けており、二〇年にごとに遷宮をおこなう。ただし、現在は伊勢神宮などのような建て替えはせずに、本殿や諸建築物の塗り替えなどの大規模修繕工事が主である。

東京オリンピック招致も決定し、東方では少しばかり騒がしい。しかし、本当に必要なものは何なのか。私たちは考え、行動することが出来はずである。

建築人 1 2014

監修	公益社団法人大阪府建築士会		
	建築情報委員会		
編集	建築情報委員会『建築人』編集部		
編集人代表	米井 寛		
編集人	荒木公樹	飯田英二	
	筑波幸一郎	中江 哲	
	橋本頼幸	牧野隆義	
事務局	山本茂樹	母倉政美	
印刷	中和印刷紙器株式会社		



2012年4月号 吉村篤一



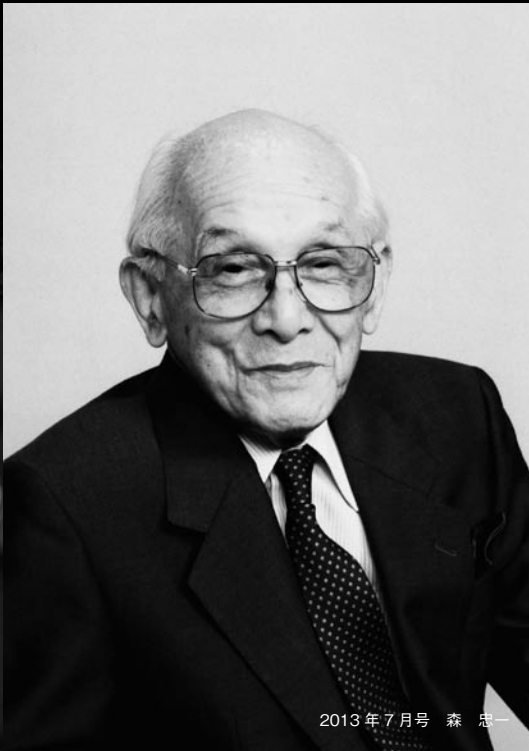
2012年7月号 安原三郎



2012年10月号 矢田朝士



2013年1月号 木原千利



2013年7月号 森 忠一



2013年10月号 二井清治

建築人

建築そのものではなく、建築に関わる人に焦点をあて掲載する「建築人（けんちくびと）」。人のもつ魅力は、職域を越えても理解しあえると考えます。創作の源泉や姿勢、人生哲学、ライフスタイルなどを垣間見ること、共感できる気づきを得ることを期待しています。

第八回目の建築人は、編集に携わるスタッフたちが企画段階からこれまでの連載について振り返るとともに、建築人への思いを語ります。

担当編集人

筑波幸一郎・牧野隆義・中澤博史・森本雅史・北聖志・河野学・奥河歩美・小畦雅史・広瀬和也・荒木公樹

『建築人』のリニューアル
荒木 『建築人』では一昨年（二〇一二年）四月のリニューアル以来、二年目を終えようとしています。これまで三ヶ月に一度で年四回発行の季刊号と年八回発行の一般号に分けて発行してきました。今回の「建築人（けんちくびと）」では、編集に携わるスタッフたちがこれまでを振り返るとともに、『建築人』のこれからについて語ってもらいます。

筑波 『建築人』はリニューアル前、誰が編集をしているのか責任の所在があいまいなまま発行だけが続いていました。リニューアルの半年前（二〇一一年九月）から準備を始め、現在に至るまで筑波・牧野・荒木の三人が役割を分担しながら携わってきました。

牧野 『建築人』は、広告やGalleryの収入で年間の予算を組み立て、それに基づいて編集を進めています。もし収入が減れば、毎月の発行が成り立たなくなるため、予算の管理まで担っています。

荒木 『建築人』がその発行にかかる経費を広告等の収入でまかなっている手法は、大阪府建築士会の初代会長である渡辺節さんが考えたものであることがわかりました。これは、編集の自立性を保つためのもので、諸先輩が受け継いできた大切なものだと再認識しました。

筑波 『建築人』の編集・発行を担って



注）界の建築家 石井修
建築人 2009 年 4 月号から
2011 年 1 月号にかけて連載

上段：座談会の様子
中段：建築人 2012 年 4 月号
下段：界の建築家 石井修
建築人 2011 年 1 月号
撮影
上段：田籠哲也

有り難いことでした。「記憶の建築」については、単行本としてまとめることも『建築人』にとって大切な話ではないかと考えます。

誌面デザイン
中澤 私が一番聞きたかったのは、誌面のレイアウトが従来の横書きから縦書きになったことです。

筑波 当初から目指したのは、読み物を前提にすることでした。縦書きにすれば何かが変わるだろうという思いと、面白いものを面白くしたいという思いがありました。せっかくお金を使っていること、竹原義二さんが『ひろば』の編集を手がけられていたという話を聞いたときに、そういう時代もあったんだなと。そうすれば、雑誌を作るというのも一つの役割なのかなと思って、フレームを作りたいと考えました。

中澤 途中で開き勝手が変わりましたよね。

牧野 季刊号は縦書きでいけたのですが、一般号はほぼ横書きでないと見られないという話になって。僕も、届いた瞬間、「やばいな、これ」って（笑）。そして案の定三人で集まらないといけないうちになって。

荒木 見切り発信をしていたものだから。牧野 それで悩んだ揚げ句、「じゃあ表



紙を反対にしようや」って（笑）。
荒木 さまざまな建築誌の創刊を手がけられた石堂威さんが「素人だからこんなことができるんだ。プロの世界では絶対しない」とおっしゃられました（笑）。

活動の場を開く

中澤 北さんは、「界の建築家 石井修」を連載当時どのように見ていましたか？
北 連載は知っていました。正直に言うともあまり意識していませんでした。まさか自分がそのようなことをするとは思っていませんでした（笑）。私としては、吉村篤一さんのような建築家のインタビューと一緒にやっていいんだ、みたいな感じで連れてこられて（笑）。本当は、早い段階でインタビュの実施を周知して、興味のある人が参加できるようにオープンに募集できるような仕組みを作る必要があると思います。

森本 建築士会のいいところは、いろんな人が幅広く集まっていて、背景もそれぞれで全然違うし、そういう人が集まっているというのが魅力なんじゃないかなと思います。そういった意味では、広く募集するというのは、とてもいい意見ですね。

牧野 幅が広がりますね。

中澤 今の人数で仕事場に伺うことがいいと思うけれど、オープンにするにはも



う少し違う形にしないと循環が難しいですね。

荒木 最近、建築といったらまじめに考えると限界があるような気がしてきていて、混ぜるとか、はみ出すといったくらのものがあつたほうが、いろんな人に受け入れられる可能性が生まれます。われわれは、クライアントでいったら一対一というような仕事を手掛けることが多いんだけど、最近仕事でいろんな人を相手にするという場面が出てきていて、そういう場合は、一人の人に向けてしゃべるような言葉では話を通じないということがあるから、一緒なんじゃないかなと思う。だから、ある人にとってはハードルが高くなると思うけれども、外していくことも意識的にやっていかなければ続かないのではないでしょうか。

河野 二〇一三年四月号の石堂威さんの話の中で、自分たちのメディアを持っているというのは大きな強みで、どんどん表現していかなければならないんじゃないかという話がありました。それに自分の何かを出していく勢いというのが自分自身は足りないなと思っている部分があるので、その言葉を聞いて、もっと表現していくことをチャレンジしていかなくてはいけないかなと思いました。

中澤 自分に返そうとしているんですね。

河野 そうですね。もらった言葉を糧に



して、自分のレベルを高めたい、スキルアップしていきたいというのがあります。これは僕の思いですが、せっかく「建築人（けんちくびと）」に携わっているので、それをまとめて一冊の本にできればと考えています。最終的に本にできるくらい「建築人（けんちくびと）」を続けていって、これがやってきた成果だと表すことができればと考えています。

奥河 個人的には、「建築人（けんちくびと）」でインタビューした方たちの中では、森忠一さんや安原三郎さん等、巨匠を支えていた方たちのお話を聞けたのがよかったです。「ひろば」で私は今年三回連載を担当させていただいています。が、梶田洋子さんとの出会いは衝撃的でした。梶田さんには、構造の技術者として自立しているのですが、すべての行動のベースに愛があると感じました。行動の根底に人間として温かいものがある方でした。

北 でも、第一線で活躍されている方と締め切り間際にいろんなやりとりをして、その人が見えてくる。それは面白いと思ったし、それが自分の経験になっていて、かなり主体的に動けるようになってきていることに気づきました。それは自分の中では、具体的にこの人からこんなことを身に付けたというのではなくて、単純にそういうことができるようになって

右ページ
上段：筑波幸一郎
中段：牧野隆義
下段：中澤博史
左ページ
上段：森本雅史
中上段：北聖志
中下段：河野学
下段：奥河歩美
撮影
田籬哲也

ていつているなど。そういうところは自分の経験としていいなと思っています。
荒木 石堂さんが指摘されていました。が、今は編集する能力が求められている時代だと思います。建築は材料等が均質化していて、つくり方自体も、これしかできないという状況がほとんどで、なかなか差がつきにくくなっているなと感じています。ハウスメーカーと建築家にも差がついてこないだろうし、建築の作り手として、埋没してしまう危険性が多分にあると思います。

『ひろば』への思いと今後の展開

中澤 一九六四年から二〇〇五年にかけて近畿建築士協議会で発行されていた『ひろば』へのあこがれが、牧野さんにはあるのでしょうか。

牧野 『建築人』に携わり始めた時、あまりにも『ひろば』との落差があると思ったのです。『ひろば』は、そこそいような人が集まってきて、本当に『ひろば』という名前を体現していた雑誌だと思いました。建築士会の事務局には『ひろば』のバックナンバーが保管されていて、二〇〇五年の最終号が特に印象的な表紙でした。表紙の印象だけで「これ、すごいな」と思ってパラパラとめくると、中身も充実している。編集後記では、みな自己主張が強く、言いたいこと、書

きたいことをはっきり書いておられる。主張しながらもバランスがとれるような編集体制があつて、クオリティが上がつて、「面白いな」と素直に思ったんです。同じ「編集」と関わっているのにえらい違いだなと、自分なりに思うことがありました。同じ取り組みのだったら、頑張ってみようと思いました。

一九五二年の建築士会の創設には渡辺節さんが関わられ、会報誌の『ひろば』は一九六四に創刊されています。創刊編集長は浦辺鎮太郎さんで、歴代の編集長には西澤文隆さん等そうそうたるメンバーが就任されていました。「なるほど、そういう位置付けの中で僕は動いているんだ」ということに気づきました。過去を踏襲する必要は全くないと思いますが、素直に、いいところもあったと思うんです。時代背景が違うので一概には言えませんが、同じ会なのに昔はできて、今はできないのはなぜなのかという課題についても考えなければならぬと思います。

中澤 僕ら、変えていかないとイケませんね。

牧野 そうでしょう。僕、別にこんなことを背負うことはないと思っているんです。ないとは思っているけれど、これは我々建築士の社会環境なんじゃないかな。実情だと思うんです。「仕事ないよ」



「仕事きつийよ」とか言いながらみんな頑張っているけれど、これが日本の中の実情だと思うんです。特に関西では、建築士はこんな感じなんじゃないかな。そんなことを言っているも仕方ないから、何とか盛り上げていかないと自分自身が盛り上がりたかと思つたときに、何が貢献できるのかと思うと、『建築人』が一番深くかかわっているから、ここでも何か社会化できること、貢献できることがあればやりたいなということが一つあります。

筑波 石堂さんとも話をしたんだけれど、「三年続いて本物だ」みたいな話があつたんです。「一年で終わるのかな」って。悔しいでしょう。

だから三年はやって、結果は僕らが判断することじゃないからね。他者がそれを見てどう思つたか、どう感じたか、どうだったか、社会的なんですよ。僕らが何かできることじゃない。
荒木 ステージは変わっていくし、運営する側に回るのが、プレーヤーに徹するのかわという話は選んでもらえればいいと思います。ただ、僕、来年思っているのは、せっかくやっているんだけれど、三五〇〇部しか刷っていないというのはいすごくもったいない。だから、季刊号だけに比べると思ふけれども、五〇〇〇部刷って、あちこちにばらまくという話は



必要だと思う。それで初めてもっと伝わるというか、それこそ公共の場所に置いてもらつたり、さらに柳々堂や大龍堂書店に置いてもらつたり、あと大学に置くという話が必要だと考えています。せっかく二年間積み重ねてきたことを、より社会化していくという話が必要だと。だから、五〇〇〇部刷るということですよ。
牧野 今まではネガティブな話ばかりでしたが、今年度の傾向は、ようやく収入が上向いていて、Galleryの投稿数や折り込み広告が好調なんです。ある程度メディアとして認められているから、逆に少しお金を使うということを考えないといけない。僕らの活動をより社会的意義にするというのであれば、やはり増やすという話だと思う。後ろ向きな話では、建築士会は社会的に存在価値がなくなつてしまふから、将来に対する投資という話だと思う。
筑波 会員だけの特権の情報誌としてとらえるのか、それとも、自分が会員になつていくことによって広まつていったほうが自分の利益になるというふうにとらえれば、自ずと道は定まつてくると思います。
荒木 そう考えないといけない。でなければ、続かないと思う。会員が減っているからと閉じてしまふ方向に進めば、会の存在価値はなくなつてしまふ



と思うし、建築士という資格自体も存在価値がなくなつてしまいかねない。
森本 でも、実質的に、建築士会に入っていない得られない情報とか、人のつながりとか、そういうことがないから、別に入る理由はないという話になるよね。
筑波 そんなんですよ。
「住宅を設計する仲間たち」との連携
中澤 建築士会の会員の中では、みんなが施設物をたくさんやっているわけではなくて、住宅をたくさん毎年一生懸命つくつていらつしやる人も多いのは事実です。
その人たちがにぎわうには、「Gallery」への掲載に際してお金を取るというだけではなく、安くするのも一つの方法だし、何らかの施策を考えて、「Gallery」がカラーで真ん中にたくさん載つて盛り上がっているな」「会員でこんなやつっているんだ。僕も頑張らないといけないな」「こんなやり方をやっているのか。住宅もこんな可能性があるのかな」みたいなことが、『新建築』のような全国誌ではなく、大阪ローカルの中でピックアップされているのがある。
そういう意味では、せっかく「住宅を設計する仲間たち」という組織が、既にあるわけだから、一緒に取り組めればということとは、ずっと思っていることなん



上段：小畦雅史
中段：広瀬和也
下段：荒木公樹
撮影
田籠哲也

です。

牧野 タダか、ものすごくいい感じなのか、それは分からないけれども。特に「住宅を設計する仲間たち」ということで入ってもらって活動してもらおう。そういう条件で何かできないかどうか。特権として。一年間だけやってみるとかね。何か付けないと、なかなか「Gallery」への掲載件数が増えにくいのは事実じゃないかな。

森本 そういう意味では、発表する場があったほうが絶対いいですよね。

中澤 「住宅を設計する仲間」の、タダで使えるページを作っていくという話の一つですよね。

森本 でも、士会の組織というか、チームがもう正式にあるんだから、そこを活用してあげるほうがお互いにいいんじゃないですか。

「建築人（けんちくびと）」

中澤 インビューしていて、雑誌とかで見る先生が多かったじゃないですか。僕、もともと組織事務所だから、アトリエ系の先生はどういうふうにやっていくのかわからなかったからということもあるけれども、意外と、苦悩されたり、コンプレックスがあったり、先ほど奥河さんが言っていたように、陰でとかサポートしてくれる、村野藤吾先生には森さんがい

たり、石井修先生には安原さんがいたり、思っていた感じと違うのが垣間見えるのはいいことだなと僕は思います。これをやっていかなかったら分からなかったから、それはよかったと思います。

あと、自分自身も、社会性をあまり意識していなかったけれども、インタビュを通して、自分の設計の中でもそうやっていこうと考えるようになって、それもちよかったですね。

筑波 その雰囲気誌面に出ればいいという気がするんだけどね。確かに、関西とは言わず、大御所を順番にいつているのは、親子関係以上の関係性があるわけじゃないですか。人生の大先輩をどうするんだという話は絶対ある。それはそれで、大変なことを今までやってきているというのは事実だと思う。そういう意味では、今年は老若男女を入れながらやれると、楽しい一年間になるのかなという気もする。

森本 でも、僕は、このインタビュに関して壁にならないといけないと思っ

筑波 そうそう。でも、取捨選択しているところで自分を出ていると思うけれどもね。何を伝えないといけないかというところで、自分のオリジナルは出ているという判断ではあるんだけど、「こう感じました」とかいうのは要らないと。何を残しておかないといけないというところのオリジナルというか、自分の思いは入っているから、それは十分表現できていますね。

「大阪ホンマもん」

牧野 僕は、「大阪ホンマもん」をやっている、毎月月末くらいになってくると、「そろそろ本気で書かない」というふうに、ほとんど習慣みたいな感じになっています。

中澤 まとめて撮りに行ったらいいんじゃないかなと思う。

牧野 まとめてといったらおかしいけれども、今意識しているのは季節ということか、背景というかバックグラウンドを意識して一緒にやっています。

森本 今回のこそ、展覧会をやったら一般の人に足を運んでもらえそうですね。

牧野 この前、江戸堀のヴォーリズの教会を、一緒に中に入って撮影したんですよ。

行くと、いろいろ発見がある。二階に

札拝堂があつて、木造の階段を上がつて

行つてパツと開けてもらつたら、スロープが緩やかに付いているんです。本当に緩いスロープが祭壇まであつて、何か気持ちよくさせてくれるわけです。見返しだかつて二人とも直感で思い、見返しを撮りました。

何かそう思ったときに、九〇年以上の建物なんだけど、椅子を始めとする家具は全部オリジナルのままで、傷がついているんですが、その風合いも含めて、さらに心地よくなってきた。牧師さんの話を聞けば、「こんなことあったんだな」と思う。そしたら、また書きたいことも変わってくるのです。

中澤 田籠さんと二人のペアであおり合

いしているんですか。

牧野 あおり合いはあるね。彼は彼なりに撮ってきたものを送ってくれているんだけれど、僕が載せていないんですよ。

中澤 そういうことになっているんだ。牧野 一応話し合いをして、「次はこれやで」ということもあるけれども、それ以外に、彼は彼なりの目利きで撮ってくる。「こんな、あるで」って。

田籠 全部没にされているんですよ。僕は「これがいい」って出しているんですけど、結局「来月これでいくで」という感じで、「送ったやつはどうなったん？」みたいな。



大阪ホンマもん

ここでは、当誌連載「大阪ホンマもん」の二〇一二年四月号から二〇一三年一二月号までの掲載分を一覧とした。
「大阪ホンマもん」では、大阪府内に存在する建造物や場について、「ホンマもん」として価値あるものを拾い上げる作業を重ねている。これらは、編集人牧野隆義と写真家田籠哲也の協働の成果である。
この連載で取り上げた建造物のなかには、残念ながら既に存在しないものや解体の時を待つのもある。二人の取り組みは、貴重なアーカイブにもつながると確信する。





ここでは、当誌が紙媒体として命が吹き込まれる和歌山市の中和印刷紙器株式会社の風景をお伝えする。当誌は毎月、ここで版下作成・印刷・製本・封入・発送がなされ、会員の手元に届けられている。中和印刷紙器株式会社と本会は、当誌の前身の『HIROBA』時代からの長い関係を持ち、全ての工程にわたる丁寧な仕事、建築をつくることと同様、本誌は、中和印刷紙器株式会社の多くのスタッフの方々の協力により成り立っている。

写真 田籠哲也



筑波 幸一郎
1968年 大阪府生まれ
1992年 京都市立芸術大学美術学部
デザイン科環境デザイン卒業
1992年 株式会社大林組
2005年 筑波建築設計工房を設立
摂南大学・京都市立芸術大学
非常勤講師

牧野 高尚
1969年 和歌山県生まれ
1988年 和歌山県立和歌山工業高
等学校建築科卒業
1993年 伊東建築計画室
2000年 Atelier PICT設立

中澤 博史
1969年 大阪府生まれ
1992年 近畿大学理工学部建築学科卒
1992年 株式会社大建設計
1998年 中澤建築設計事務所設立

森本 雅史
1974年 三重県生まれ
1998年 京都工芸繊維大学大学院
(博士課程前期)修了
1998年 株式会社東畑建築事務所
2009年 森本雅史建築事務所設立
近畿大学工業高等専門学校
非常勤講師

北 聖志
1976年 大阪府生まれ
2001年 神戸大学大学院(博士課程
前期)修了
2001年 二井清治建築研究所
2007年 THNK一級建築士事務所
設立
近畿大学非常勤講師

河野 学
1979年 大阪府生まれ
2008年 大阪大学大学院(博士後期
課程)修了
2008年 大阪大学大学院特任研究員
2009年 大阪府立工業高等専門学校
講師
2013年 京都市住宅供給公社

奥河 歩美
1976年 兵庫県生まれ
2001年 神戸大学大学院(博士課程
前期)修了
2001年 共同設計株式会社
2007年 O+O architects
2010年 空間計画株式会社

小畦 雅史
1976年 奈良県生まれ
2004年 神戸大学大学院(博士課程
前期)終了
2005年 (株)いるか設計集団
2010年 荒谷建築研究所
2012年 小畦雅史建築設計事務所
設立

広瀬 和也
1983年 兵庫県生まれ
2009年 大阪市立大学大学院(前期
博士課程)修了
2009年 株式会社東畑建築事務所

本特集責任編集人
荒木 公樹
1971年 大阪府生まれ
1995年 神戸大学工学部建築学科卒
1995年 建築環境研究所
2003年 空間計画設立

牧野 だから、僕はそれを展覧会で発表

したい。その中にすごくいいものもある
のよ。載せたいけれども、ここではない
というのも事実あるのよ。それも合わせ
て僕は別建てでしたいのよ。そういう思
いが個人的にあるのと、毎月やってい
るからネタがなくなると思うのだけれど、
意外とそのテーマで伝えたいことがある
もんだなと思って。

森本 匿名性の高い企画なんだけれど、
多分に二人のキャラクターが出ていると
思う。

中澤 これこそ、「遊んでいる」ってや
つやね。

牧野 この建物なくなるかもしれないよ
という話をお互いしながら、「今月、こ
れ、行っておこう。行つとかなあかん」
とかいうのをリアルタイムでやって載せ
ている。「やっぱり、これ、行っておき
たい」とか。言い方悪いけれども、そ
ういうのも普通の雑誌だったら絶対でき
ない。この会報誌ならできるかなとい
うことで、利用しながら遊んでいるの
かもしれない。

今まで掲載してきたものも無くなった
ものは結構多い。大阪中央郵便局とか。
残念ながら大林ビルもその候補の一つだ
ろうし、村野藤吾さんの旧新歌舞伎座も
いずれなくなってしまうと思う。すべて
遺作のように、遺影のように並んでいる

かもしれせん。

編集活動に参加することの意義

牧野 僕は、初め、建築士会というより、
こういうところでまじめに建築を勉強し
たいと思って入ったけれど、別にここ
でなくてもよかったんです。たまたま入
ったところがここだったから、今一生懸命
勉強しているということが言えます。

やっているときは、盲目的に一生懸命
作ろうとするじゃないですか。結果的に
遊んでいるんですよ。でも、編集の立
場だから、全体を見ながら、読者がど
ういうふうに見て思うのかということ
は、常に意識しています。写真をこうし
ようか、ああしようかというの、小さな
ところかもしれないけれど、そのことが
社会化する上で役に立ったりすることが
多いから、そこが僕らの役割の一番し
んどいところ、一番僕らにとって遊ぶ
ところだからね。

筑波 仕事でもそうだけれど、嫌な事
が来たときに本気で取り組んで面白く
やつたら、いい結果になる。一気にす
べての物事ができればいいんだけど。協
力してもらっただけだと義務になるか
らうまくいかないのであって、やはり
面白がつてやることを前提に、その仕
組みをつくることから始めないといけ
ない。

荒木 幅ではないですかね。

筑波 それもあるけれども、女の人が

入って来ないと活性化しないね。この
間、出雲大社へのバスツアーに参加し
たと、案内人が地元美術館の先生で、
面白おかしく話してくれて、「最近
は、出雲大社とかお寺は、女の子ば
かりですわ。お寺女子とか言うん
ですかね」「昔は、おじいちゃん、
おばあちゃん、よばよばの人しか
来なかったのに、もう若い女の子
ばかりが来るから、すごくいいす
わ」とか言っていて、すごく楽し
そうだったんです。そうやな、それ
やと思って(笑)。

森本 だから、高齢の会員向けどう
ののと言っていたけれども、僕そこ
じゃないと思うんです。若い人に向
けて作るべきじゃないかというのが
、僕の前提なんです。

牧野 どうやって『建築人』を一般
化、社会化していくかという仕組
みの話は、僕らの宿題なんです。た
またまゼネコン設計部の方にお
会いしたときに、『建築人』を社
内の方に読んでもらっている
と聞きました。森忠一さんの話
があって、彼らは森さんがどの
ような人物か分からなかった
けれど、特集号で初めてよく
分かったと教えていただきました。

だから、どちらかというと、専門
的にすぎると僕は思ってしまう
面も、ある人にとっては、も
っと身近で、「ああ、こんな
ことを知ったかった」ということ

につながっていることを実感しました。

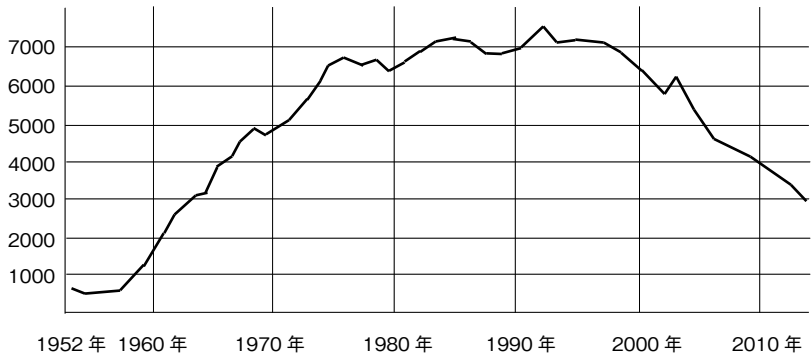
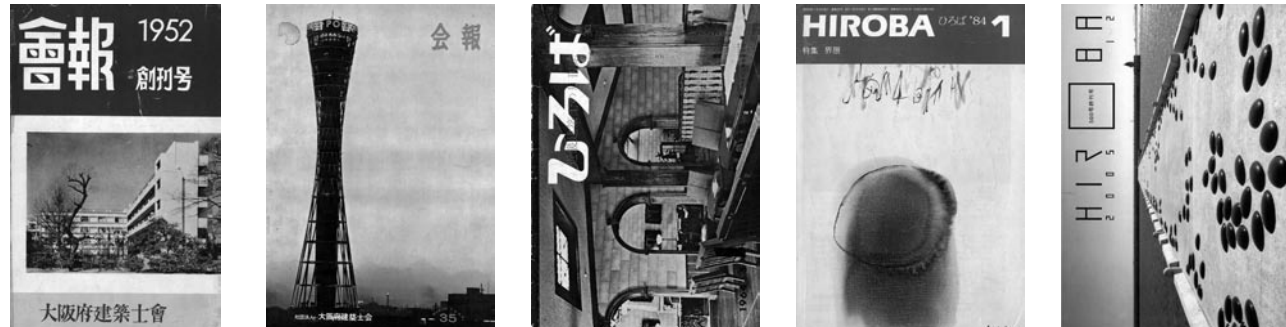
ただ、見せ方というのはいろんな編
集の仕方でもできると思うので、も
う一つ次のテーマとしたら、会
員に対してまず喜んでもらうこと
を第一にこの二年間はやってきた
けれど、来年度は、もう少し幅を
広げていくことをやっていきたい。

中澤 混ざっているほうが絶対いい
と思う。ベテランばかりじゃなく
て、バラエティがあるほうが楽し
いだろうし。

筑波 だから、建築家だけでなく
ても、例えばゼネコンもありだ
と思うし、組織設計事務所もあ
りだと思えます。そういうのもあ
るし、芸能関係であったり、舞
台の人であったり、技術の人であ
ったり、建築とも少しかわりの
ある人であったり、あるいは、
そういうことが語ることができる
人というのもありだと思

牧野 幅と、いろいろ混ぜていく
というのが今後は必要だと思っ
ています。

二〇一三年十二月二十一日大阪サ
ロンにて

	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
会報・ひろば・HIROBA 建築人に関する出来事	1952.8 「会報」創刊号 1954.10 「会報」近畿建築士会 合同編集第1号						2012.4 「建築人」リニューアル 特別号年4回、一般号年8回発行 建築人（けんちくびと）連載を開始
会報・ひろば・HIROBAの 歴代編集長	稗田治（1952～1955） 恒岡俊行（1955～1961）						2005.12 「HIROBA」500号にて 終刊 2006.1 「建築人」創刊 2008.1 「記憶の建築」（松隈洋） 連載を開始
大阪府建築士会 に関する出来事	1952.3.29 大阪府建築士会創立 1954.3 第1回大阪建築コンクール開催 （2012年までに58回開催）						2011年 建築士会全国大会 （大阪大会）震災のため中止
大阪府建築士会の 会長・主な理事	会長：渡辺節（渡辺節設計事務所） 1952.3.29～1966.3.31 副会長：鷲尾九郎ほか 理事：村野藤吾・東畑謙三 浦辺鎮太郎・大林芳郎ほか						会長：柳川陽文 （小河建築設計事務所） 2008.5.28～2012.5.29 会長：岡本森廣 （全日本コンサルタント） 2012.5.30～現在
会員数の推移 （正会員）	 <p>正会員数 1952年創設時 734名 最大時（1991年）7,391名 2013年11月現在 2,946名 （うち一級2,488名・二級450名・木造8名）</p> <p>正会員年齢構成（2013年8月現在） ～39才 6% 40～49才 21% 50～59才 29% 60～69才 30% 70才～ 14%</p> <p>正会員勤務先分類（2013年8月現在） 建築設計事務所 54% 建設業 25% 官公庁・学校 4% 住宅産業・建材 6% その他 11%</p>						 <p>会報創刊号（1952年）</p> <p>会報最終号（1964年）</p> <p>ひろば創刊号（1964年）</p> <p>HIROBAへの改題号（1984年）</p> <p>HIROBA最終号（2005年）</p>
会費の推移	1,200円（1952～60年）						19,800円（2002年～）
社会・建築界の 主な出来事	1950 建築基準法・建築士法 公布 1951 第1回一級建築士免許 3100名発表 1952 日本建築士会連合会設立総会						2011 東日本大震災 福島第一原子力発電所事故

第6回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 古谷 誠章（早稲田大学教授）



1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ（現NASCA）
共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授
本年度より建築人審査委員長

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞 （賞状と記念盾）
建築人奨励賞 （賞状）

※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第6回 対象作品

「建築人」2013年1月号から2013年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（2段階審査）

一次審査 建築人誌面より選定
二次審査 二次審査資料により選定（現地視察含む）

■ 受賞発表

建築人2014年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』Gallery 掲載作品 募集中 2013

会報誌「建築人」では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円
カラー 1ページ 10万円
モノクロ 2ページ 10万円
モノクロ 1ページ 5万円

※モノクロページは住宅に限ります。

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会「建築人」
Gallery 建築作品掲載係まで。

二〇一三年九月八日、二〇二〇年のオ
リンピック開催都市に東京が選ばれ、テレ
ビや新聞の報道は祝祭ムード一色に包まれ
た。しかし、その直後から、開会式が行わ
れる新国立競技場の建設計画をめぐって大
きな議論が巻き起こり、今もなお続してい
る。それは、元をたどれば、建築家の横文
彦氏が、招致決定前に日本建築家協会の機
関誌へ寄稿した文章、「新国立競技場案を
神宮外苑の歴史的文脈の中で考える」(『JIA
News』二〇一三年八月号) による貴重な
問題提起に始まる。横氏の主張は明快だ。

東京有数の都市的景観として著名な神宮
外苑という環境とおよそ不釣り合いな巨大
な規模と災害時などの防災計画への不安、
そして、実施案のデザインを選んだ国際コ
ンペ要項の杜撰さと計画決定プロセスの不
透明性への疑義である。この問いかけは大
きな共感呼び、シンポジウムの開催や意
見書の提出などが相継いで議論は市民へと
広がった。だが、オリンピック開催という
至上目的の下、規模は二割ほど縮小された
ものの、既定路線のまま突き進んでいる。
ここでは、こうした性急な事態を前に、む
しろ、二〇一四年七月からこの計画のため
に取り壊される予定になっている現在の国
立競技場について振り返っておきたい。

一九二六年の竣工以来、数々の名選手と
世界新記録を生み出し、市民の憩いの場所
でもあった明治神宮外苑競技場では、今か
ら七〇年前の一九四三年十月二十一日、冷
たい雨の降りしきる中、七万人の学生を召
集して、動員学徒壮行会が挙行された。彼
らはここから激戦地へと向かい、その多く
は戻らなかった。敗戦後、進駐軍に接収さ
れていた外苑競技場は返還されて国有とな
り、一九五六年、建設省の設計によって、

記憶の建築

松隈 洋

国立競技場 1958・64年
歴史を目撃したスポーツの聖地



北側から見るメインスタンド外観



観客席から聖火台とトラックを見る

一九五八年の開催が決まったアジア競技大
会のために建替えられることになる。この
ような経緯を経て完成したのが、今の国立
競技場の原型である。そして、翌一九五九
年には、日本で初めてとなる第十八回オリ
ンピック大会の開催が決まったため、観客
席の増築工事が急ピッチで行われていく。
こうして迎えた一九六四年十月十日、東京
オリンピックの開会式は、「世界中の秋晴
れを全部東京へ持ってきてしまったよう
な」と、テレビ中継で報道された。おそら

にあった、神宮外苑陸上競技場の解体です。
学徒動員で雨の降りしきるあの競技場から
出陣していった先輩達を見送った一人とし
て、忘れられない建物でした。」

また、丹下健三の下で、この国立競技場
の増築と共にメイン会場として新築された
代々木の国立屋内総合競技場の設計を担当
した神谷宏治は、次のように証言していた。
「戦争で負けてまだ十五、十六年しか
経っていないかった頃ですので、その国が

く、国立競技場の建設に携わった人々の脳
裏には、同じ場所を雨の中行進した出陣学
徒の姿が二重写しになったに違いない。
東京オリンピックから三十周年の節目に
行われた座談会(『国立競技場の三〇年』体
育施設出版一九九四年) には、当時を振り
返った複数の発言が残されている。例えば、
競技場の実施設計を担当した大成建設の内
藤澄守は、次のような回想を述べていた。

「思い出の一つは、国立競技場を造る前

オリンピックを開こうなんて、若い我々
でも相当冒険ではないかという気がし
てました。ですから当初、かなり緊張
していたことは今でも記憶に残っています。
それはどういう緊張感かと言いますと、敗
戦以来の一種の劣等感と言いますか、それ
を何とかはね返すんだ、日本がこれから国
際社会に再び咲いていく名刺代わりとし
て、オリンピックを開き、目覚ましく復活
していくんだということを建築を通しても
世界に示すんだという意気込みだったよう

に思います。」

「国立競技場を活用する基本は、国民の
本当の意味におけるスポーツ振興の場にな
ってほしい。そのために使用料もでき
るだけ低廉にし広くアマチュアスポーツ
に開放すべきである。スポーツ以外の行事
はできるだけ避け、運営については国が十
分に補助すべきである。」(『国立競技場十
年史』一九六九年)

この川本の提言はオリンピック後も活か
され、二〇一三年十二月一日、この競技場
で最後の早明戦が催されたラグビー大学対
抗戦をはじめ、全国高校サッカー選手権大
会や市民マラソンなど、アマチュアスポー
ツの聖地として長く親しまれてきた。こう
した歴史を振り返るとき、唐突に計画され
た新国立競技場は市民に開かれた場所にな
り得るのか。神宮外苑の森とスタンドの上
に広がる高い空は、そう問いかけている。

松隈 洋

京都市立芸術大学教授、博士(工学)。
一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京
都大学卒業後、前川國男建築設計事務所
に入所。二〇〇八年十月より現職。



キャラクターデザインや文具・ファンシーグッズなどを開発している企業の新社屋である。外観はファサードに変化をつけるために、シースルーとしたエレベーターを正面に配置し、執務部分とコア部分のボリュームを切り離した。内装については全ての階の色遣いまたは素材を変え、無味乾燥とならないようにしている。床材の選定には特に気を使ったが、この特徴は夜景にもよく表れている。最上階には和庭園を設けているが、来訪者に対するおもてなし空間として使われている。これらによって、この建物が日常的にクリエイティブな創造が行われるに相応した空間になっていると確信している。

所在地：大阪市中央区
用途：事務所
竣工：2013.9
構造規模：鉄骨造
地上10階建
敷地面積：383.49㎡
建築面積：247.45㎡
延床面積：2,150.35㎡
写真：Stirling Elmendorf



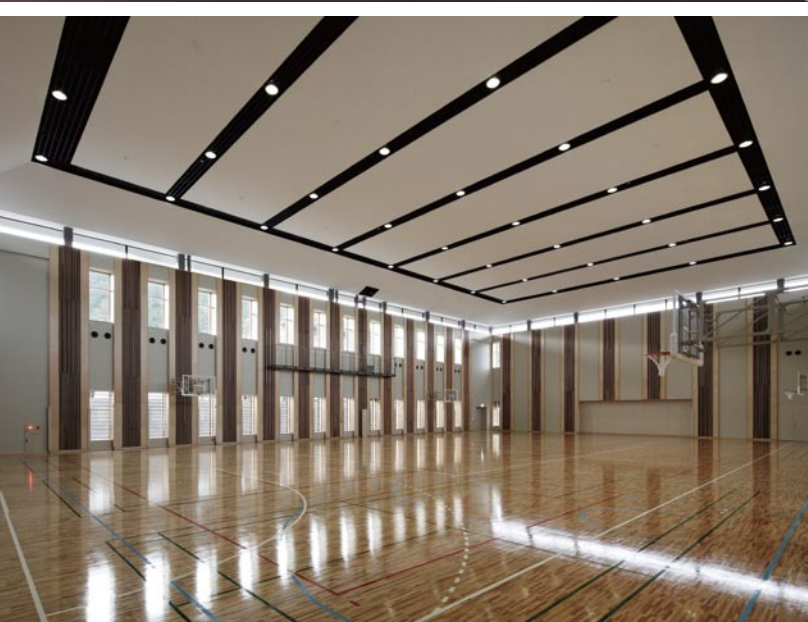
私立の中高一貫校である清風南海学園の創立50周年事業として、新校舎の建設を中心としたキャンパス全体の再構築を行い、キャンパスイメージの刷新、学園を象徴する朝礼の場づくりが求められたプロジェクト。全生徒が一堂に会する朝礼の場となる中庭は、毎日の般若心経読誦の舞台となり、6年間一日の始まりの時間を過ごす場所として、キャンパスの中心に位置づけ、校舎で囲まれた安心感のある配置とした。外装はスレンダーなコンクリート打ち放しの柱・梁の構造体を現し、柱間に設けた縦ルーバーを連続させることにより、躯体そのままの力強さを表現するとともに、環境性能を高めた。（渡辺豪秀／菅原幸也／村井健治）

所在地：大阪府高石市
用途：中学・高校
竣工：2013.9
構造規模：RC造4階
敷地面積：15,589.27㎡
建築面積：4,396.59㎡
延床面積：11,314.76㎡
写真：フジタ写真工房



京都市南部「らくなん進都」に建設された産学連携の研究施設である。最先端の技術シーズを事業化へ橋渡しするプロジェクトを展開。更にオープンイノベーション的交流の場として研究開発や企業活動の広がりを推進する役割を担う。ラボに求められる機能とフレキシビリティを備えつつ、区画毎に設けた玄関や窓により入居者の顔が見える構成とし、研究者相互の自然な交流を促す。更に低層部には外部との結節点として、カフェや会議室を設けた。外観は、開放的な表情を持つ低層部を近景、設備バルコニーをH型鋼のルーバーで覆った高層部を遠景の顔として意識。両者の融合を図ったデザインとした。（岡田泰典／赤木建一）

建築主：（公財）京都高度技術研究所
所在地：京都市伏見区
竣工：2013.9
構造規模：S造（一部SRC造）
敷地面積：2,999㎡
建築面積：1,348㎡
延床面積：5,938㎡
写真：東出清彦写真事務所



老朽化した2つの体育館を新築と減築により統合する計画である。
アリーナを2段積みし、地下15mに及んだ大規模な地下体育館に幅6mの光庭を最下階まで設け、光と風を導く計画とした。
地下湧水を太陽光パネルの効率低下を軽減させる冷却流水として用いる屋上水盤や、広場化した減築棟地上部に残された壁など、龍安寺につづく立体的散策路に修景要素をちりばめることで環境教育要素を見える化している。人・まち・地球にやさしい持続可能な都市型建替校舎の先導事例として、狭隘化したキャンパス再整備のさきがけとなることを期待している。
(永井 務)

建築主：学校法人立命館
所在地：京都府京都市
用途：学校（大学）
竣工：2013.9
構造規模：SRC造+S造
地下3階
地上1階
敷地面積：5,927.55㎡
建築面積：2,391.34㎡
延床面積：9,409.49㎡
写真：益永研司



園児達にとって、保育園は第2の住まいです。一日の大半を過ごすこの園内のどこにいても、伸び伸びと過ごす事が出来つつも、五感が刺激される遊びのある空間を目指しました。
この都心型の120人収容の保育園は四階建てですが、上下階の繋がりも隣接する保育室同士の繋がりも、境界を感じられないものとしています。保育室の外側の廊下に広がりを持たせる事で、保育エリアを拡張させ、更にはガラス張りの階段までその領域を広げています。三層吹抜けの光庭を囲む外廊下や階段はループ状に配され、園児達が保育室を飛び出し元気に走り回る様が、施設全体に微笑ましい活気を与えています。

所在地：大阪市東淀川区
用途：保育所
竣工：2013.10
構造規模：RC造4階建て
敷地面積：893.93㎡
建築面積：481.75㎡
延床面積：1444.37㎡
写真：富田英次

建築構造案内

ひろばHIROBA

二〇一三年度のHIROBAは、「建築構造案内」と題して、関西で活躍する構造設計者にインタビューし、その人物像や考え方を紹介していく。

第四回は第三回に続き、桃李舎の代表、梼田洋子氏。昨年の創立二十五周年記念パーティーは、多くの人がお祝いに駆けつけ、手作りの心温まるものであった。

今回は、そのように多くの人々を惹き寄せた梼田氏のこれまでの活動と、その礎となる想いを伝えたい。

言葉のない構造計算書

——梼田さんは、構造計算適合性判定員の仕事もされていらっしゃいますが、どのように感じられていますか。

「驚いたのは、計算書に『言葉がない』ということです。応力、断面算定、淡々と数字が並んでいるだけというのが実に多いです。例えば数字だけを見るとぎり

ぎりの設計の場合、『何か担保があつてそうされているのですか?』と聞いて『この部分は、計算にはのらないけれど、実際には効くと思っている』とか、設計者とそういう話ができたと思います。どういうふうに考えて計画したのか、『思想』の部分を知りたいので、できるだけヒアリングや面談をさせてもらっています。

木造の判定では、意匠事務所の若い人が不慣れた計算書を作っていることがあつて、『事務所に来てください、計算書の作り方を教えます』って言ったこともありま(笑)。そんなふうに私は自分なりにいいと思う形でやっています。当初、適合性判定のシステムができる

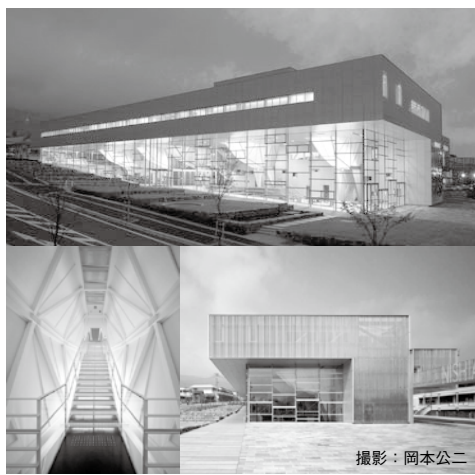
と聞いたときは『ピアレビュー』の導入かと期待しました。役所の人ではなく、同業の実務者と、対等な対話を通して建物の評価を得るという形なら、建物の本質的な考え方を議論できます。これで設

計の自由度が上がると思いましたが、逆でした。質問がマニュアル化され、専門的な指摘が増えただけですね。——構造計算書偽造事件後、確認申請自体も通りにくくなりました。

「以前は、構造形式にとられず、形を素直に表わすとなつた、という構造計画ができました。でも今は『構造』という型にはまらない構造は、申請機関が受け付けてくれなくて苦労します。建築家と打合せをするときも、まず『申請をどうやって通そうか?』と考えるようになりました。

偽装事件直後は審査がもっと硬直化していたので、仕事の意欲を失くしていました。そんな時に日本建築構造技術者協会(JSCA)からJSCA賞募集の一斉メールが来たんです。『構造技術者の社会的地位向上のためには、自ら声を上げる」とが不可欠です。まず第一歩として、自

西有田タウンセンター



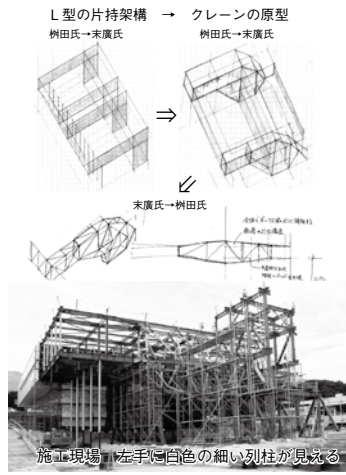
——西有田は、はね出した大屋根が印象的です。

「打合せに行ったとき、L字型の長い模型がボンと置いてあったんです。屋根のはね出しが十五メートルくらいあったと思うのですが、そんなのはできるはずないので、最初はあきらめてもらおうというつもりで、考え始めました。十五メートルのはね出しは、一層分に相当する四メートルの高さのトラスなら、やれないことはないですね。そこでまず『並んだトラスで部屋が分断されるので、建物として使い物にならないでしょう』と、設計者の末廣香織さんにファックスを送ると『いや別に、間仕切りはある程度必要だから、これでもいい』と。あきらめてもらうつもりがそうならなくて『うーん』と思ったんですが、考え続けるうちに『トラスを二枚セットにして一体にすると数を減らせるから、部屋の分断が緩和できる。トラスも立体になるとボリュームが出るから安定するな』とか『はね出しが長くなるのは、頼杖で

補強して』『重心を後ろに下げたいので、後ろにもはね出しを』とか、やっているうちに『クレーンみたい』と楽しくなつて…。

——有機的な形状ですね。

「そうなんです。『ちょっとこの方向で考えてみます』と言われて、次に末廣さんから来たスケッチがこれです。もつと有機的に(笑)。私、このスケッチを見たときに、やっぱり建築家はすごいと思いました。構造設計者は、いきなりここからここには絶対飛躍できませんから。」



——前面の列柱はとても細いですが。

「結果的には、前面にガラスのサッシが必要なので、細い柱を立てることにしました。でも、細くしたいので、軸力を抑えるために、クレーンの形を工夫しました。座屈耐力を上げるために柱脚を埋め込み、前面のX方向のねじれ変形を抑えるために側面を固めて、といったことも考えています。柱は、肉厚の熱間成形のシームレス鋼管で、径は一六五・二ミリです。最初に現場で見たとき驚くほど華奢で、思わず『もう一回計算書見直します』と言ってしまいました(笑)。長い柱は座屈耐力が小さいですが、敷地に高低差があつて、YKKと同じように短い

らの仕事に自信を持ち、アピールすることから始めてみませんか?」と。私、そういう言葉に弱いんです(笑)。「そうだ」と心を動かされて、『西有田タウンセンター』という建物で応募したところ、『C賞をいただくことができました。』

YKK黒部堀切寮

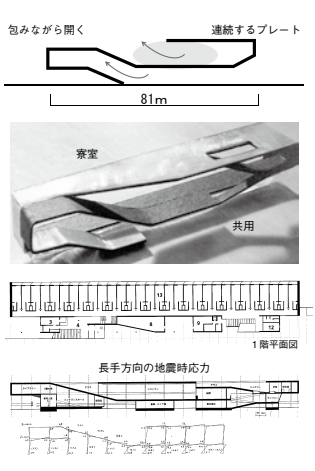
「その西有田につながる建物として『YKK黒部堀切寮』があります。

入居者は十代の女性なので、オーナーからは、死角のないセキリテイの高い建築を要求されました。でも、自由な暮らしも楽しませてあげたい。そこから『包みながら開く』というコンセプトが生まれました。プレートを連続させて、いろいろな場所を生み出すという計画です。建物を長手方向に二つのゾーンに分け、前面ゾーンを階段やスロープで上がった下がり下がりする変化に富んだ共用ス

柱と長い柱が混じっていて、長い柱には曲げが入りにくい構造になっています。——列柱は全て同じ部材寸法なのですか。

「同じです。JSCA賞の現地審査でも聞かれました。『クレーンがある所とない所では軸力が異なるのに』と。でも私は『径が同じで厚みが違えば、発注時や現場で間違ふもとです。それに、もしこの柱が座屈しても、両脇の柱が軸力を負担できます。それくらいのリダンダンシーは持たせるべきでしょう』と答えたんです。審査員の方々からは『僕が構造設計者なら、設計では厚みを変えておいて、現場でコストダウンになるなら同じ厚みにするかな』とか『いやいや、これくらいするよ』という意見もあり、皆さんの普段の設計が垣間見えて面白いなと思いました。

クレーンは繭のような膨らみのある自己完結した構造体です。その内部には、膨らみを維持するためのつつかえ棒のような水平材が一本ありました。クレーンの周囲には床があるので、コンクリートをつつと、その水平材は不要になります。ある審査員の方が、クレーンの内部階段を歩きながらその部材に気付かれて質問し『床で固まって不要になるなら、取った方がスッキリする』と言われたんです。でも私は『自立したクレーンが並んで、床を支えているというコンセプトなので、取りませんでした』と答えました。『それはそうだ』『いや僕なら取るな』と、また意見が分かれ、そういう場面が何度もありました。審査の間、私は、これこそ理想的な『ピアレビュー』と思っていた。同業者との自由なディスカッションほど有意義なものはありませんね。」



最終的には、全て鉄骨で計画しました。背面は、カチツとしたラーメン構造。前面は、背面から独立した上がり下がりのあるプレートを細い柱が支えていて、全体が大屋根で一つにつながっているという構造です。前面の長手方向は、長い柱と短い柱が混じった架構になっています。長い柱は座屈耐力が小さいので、曲げはかけたくない。軸力だけでもしんどいの、そこに曲げが入ったらもつとしんどくなる。でも、短い柱が混じると、剛性の高い短い柱に地震力が集まって、座屈耐力がある柱で曲げが負担できるので、同じ柱の太さでも役割分担ができます。結構これっていいな、と思ったのが、西有田のプロジェクトにもつながっています。」

木造建築

——一九九五年に阪神淡路大震災があった、その頃から、木造にも広く取り組み組まれていらつしやいますね。

「はい。木造住宅の被害は衝撃でした。その頃、伝統構法で建てられた木造の幼稚園の耐震改修をして欲しい、という依頼が来たんです。経験がなかったので調べると、震災の教訓から、告示で仕様規定が強化されて、金物を使わない伝統構法の建物は、建てられない状況になりつつありました。」

京都や奈良がある関西では、そういう状況に危機感を持った実務者や研究者が、日本建築学会に特別研究委員会を立ち上げていました。一九九九年です。ちょうど実物大のお寺の架構の振動実験をするというので見に行ったのですが、ぎしぎしと大きな音を立てながら揺れても倒れない、大きな変形能力に驚きました。その日をきっかけに、設計法の開発に参加することになったんです。

柔らかくしなやかな建物には、振動の理論を使った設計法がふさわしいことがわかりました。設計マニュアルは、ちょうどその頃告示に加わった『限界耐力計算』に乗せる形で完成しました。ところが、これまで、合板や筋かいで木造をかくたく強く作る基準を作ってきた東京の先生方からは、反発を受けました。もともと『限界耐力計算』は、鉄骨やRCの建物を想定した設計ルートだったから、盲点だったと思います。しかも性能設計なので、仕様規定をはずすことができます。地域によって異なる大工さんの技を生かす設計法として、全国を旅芸人のように

まわって講習会をしました。

新しい設計法ができた当時は、熱烈に歓迎される一方で、伝統構法の大工さんの中には『大工の深淵な技が計算なんかで分かるのか?』という人もいて、気が滅入ることもありました。また、木に関わると、現在の林業の課題にも気付き、環境問題にも無関心でいられなくなってきました。」

iPod

「それで、iPodという木造のユニット工法の開発に、共同で取り組みました。国産のスギで作った口の字型のフレームを等間隔に七本並べて鋼製のアングルで結合した箱 (Pod) が基本ユニットです。このPodをジョイントして建物にします。

フレームの仕口は薄鋼板+釘という現代の技術で作るので、熟練の大工さんでなくても作れますが、木じょうしのめり込みや摩擦といった伝統構法の特徴が活かされています。フレームとPodは、実験によって、大きな変形性能と耐力を確認しています。性能がわかったPodを組み合わせて建物を作るので、安全性については偽装の心配がありません。

スギ材は同一サイズなので、計画的な伐採ができます。現場では中ボルトで組み立てるので、施工も簡単。Pod単位で、増築も減築もできます。フレームには、通し番号と製造者と製造年をスタンプしています。リカレント(循環)を意識したシステムです。」

——桃李舎の下の駐車場に、実際にiPodを建てられています、どのように使われているのですか。



撮影：中川敦玲

YKK 黒部堀切寮 意匠設計：TEONKS TEO アーキテクト+NKS アーキテクト

豊崎長屋 意匠設計：大阪市立大学 竹原・小池研究室



撮影：網巻 豊

「賃貸オフィスとして使ってもらって、毎月、消費電力を計測しています。これを建てた二〇一一年の夏は、計画停電があり、社員を在宅勤務させる企業もありました。震災で大きな代償を払ったけれど、社会はこれが変わる。小さな家で消費電力を減らして、コンパクトに暮らし、在宅勤務で通勤ラッシュもなく、仕事のスタイルを変えて、暮らしを楽しみ、成長なんてもうしなくてもいいじゃないか、と考えていました。そんな暮らしを自分たちで実践して、『こういうのがあるよ』と発信していこうと思っています。」



桃李舎下の iPod

兵庫県豊前清水谷住宅 提供：iPod エンジニアリング

構造家の職能

——構造設計は、人の命を預かり、社会的責任など背負うものが大きいと思いますが、心がけていることはありますか。

「どこまで考え尽くしたか、ということですね。想像力を働かせて、外力の設定とか、時間の限り、あらゆる可能性を考え尽くすことです。例えば、既存住宅の耐震改修では、全てを調査できないので、『本当にこうかな』という心配は常にあります。いくら考えても自然の力はいつも想像力を上回ります。だから、万一、何

かあったときに『あの人があれだけやってもだめだったのだから仕方がない』と、お施主さんに許してもらえるように、全力を尽くすことだと思います。」

——建築家との関係としてはどうですか。

「建築家のアイデアアスケッチやコンセプト模型の前に、最初の打合せをするときは、どこに着地させようとかは考えていません。相手もそうですね。一緒にスケッチブックを広げて電卓を叩きながら、ぼつぼつアイデアを出し合っているうちに、ストーリーが見えてきます。だんだん熱中してやってくるうちに収斂していくという感じですね、構造計画の最初は。」

現在の施工技術があれば、たいいていのは造ることが出来ます。でも、力学的に合理的でないものは造りたくありません。もしも建築家が自分のデザインの実現のために、構造を置き去りにするようなことになったら、いえ、今、一緒に仕事をしている建築家にそんな人はいませんけど(笑)、私はお施主さん側に立って、その人を守ります。お金を預かって、命と一緒に預かる。そこで冷静な判断ができるのは、構造設計者しかないと思うんです。」

構造の仕事の進め方、建築への関わりや取り組み方、人柄を含めた考え方、全てが魅力的で、それが穏やかで優しい語り口につて、温かくすつと入ってきた。この「建築構造案内」を通し、構造設計の面白さが伝わっていれば幸いである。

聞き手／牧野隆義・谷川健二・荒木公樹・

奥河歩美・中村尚子(文責)

NEXT21 が竣工して 20 年がたち、昨年 6 月からは第 4 フェーズの居住実験が始められています。編集にあたり見学会に参加させていただきましたが、実験建物としてのスケルトン・インフィルやエネルギーシステムへの対応などのサステナビリティについて強い感銘を受けました。本号では近角真一さんに、そのような可変性能を支えるオープンビルディングの思想を含めてご執筆いただきました。

NEXT21 フェーズⅣ サステナブルデザインの源泉

近角 真一

集工舎建築都市デザイン研究所 代表取締役

東京建築士会 理事

1947 年 生まれ。1971 年 東京大学工学部建築学科卒業、内井昭蔵建築設計事務所を経て現職。東洋大学大学院客員教授 東京芝浦工業大学客員教授 東京藝術大学美術学部 非常勤講師。求道会館・求道学舎保存再生事業で 2008 年 日本建築学会賞（業績）

未来型実験集合住宅

NEXT21 は大阪市天王寺区に大阪ガスがその社員と家族の居住用に建てた集合住宅で、様々な開発機器を投入し居住そのものを実験として取り組んでいる施設である。

当初名称は「未来型実験集合住宅」となっていて、大阪ガスがこの建築に掛けた意気込みがこの三文字に表れている。

一九九〇年一月プロジェクト発足当初、委員長の内田祥哉先生はシステムズビルディングでやりたい、副委員長の巽和夫先生は、それを二段階供給でやりたい、そして委員会の合意は大阪の地域住宅として作るということであった。委員としてその場に居た私は、大阪ガスの期待感と委員会の思惑とがすれ違うのではないかと一抹の不安を覚えた。

オープンビルディング

委員会で取り上げられたのは、オープンビルディングと呼ばれる思想で、一九七〇年代の初頭にマスハウジング批判としてオランダの建築家 J・N・ハブラーケン氏が唱えたものであった。二〇年も前にジャーナリズムに登場した思想が、大阪ガスの願う未来型の解を引き出せるのか？というのが私の不安であった。私のようなオープンビルディング未経験者も含めプロジェクトメンバーは揃ってオランダに赴き、ハブラーケン氏自らの案内で実例の幾つかを見ることができた。成程これなら大阪ガスも満足だと、確かな手ごたえを掴んで帰国した。

ハブラーケン氏は、NEXT21 の建設中も、また完成後も度々ここを訪れ、さらに自身の著作の中で NEXT21 がオープンビルディングの最も優れた実践例の計者は一チームであり、インフィルの設計者はインフィルの戸数だけのチームがあった。そして、クラディングと命名された外壁をこの両者が協働で設計した。「スケルトン設計者は外壁のルールを決める。一方インフィル設計者は外壁の位置を決める。」これがルールだった。

A 種壁・B 種壁・C 種壁

住戸設計者がその位置の決定に関与できる外壁には A、B、C 種の三種類がある。NEXT21 を街区外から眺めて見えるカラステンレス仕上げの外壁が A、B 種壁である。この A・B 種壁は特別な吹き寄せグリッドの狭い幅（バンド）の位置のみに設置することができる。一方、中庭をコの字に取り囲む共用廊下に面する外壁には様々な表情のものがある。これらはひとまとまりに C 種壁と呼ばれている。C 種壁の意匠は住戸設計者に決定権があり、しかもその位置についてグリッドから離れてもよい。

ルールブックには最大外壁線の位置や、強制緑化エリア、住戸最大面積などが規定され、このルールの中で住戸設計者は自由に住戸をまとめ上げることができた。

水廻りの配置を自由にするスケルトン

NEXT21 ではもう一つの大きな自由度が住戸設計者に与えられていた。それは水回りの配置自由性である。通常の集合住宅では便所や浴室などは、縦に同じ種類の水回りが揃うように決められていて、これを無視して位置を変更することなどまず技術的に不可能である。住戸の中を縦に配管が貫通していて、水回りはその配管に接続されている。

一つであると紹介してくれた。

事実、NEXT21 は、オランダに限らず、かつて構想された世界中のどのオープンビルディングプロジェクトよりも未来的なものに仕上がった。

間もなく NEXT21 は竣工して二〇年を迎えるが、「未来型」の頭文字は色あせることなく、昨年の六月にスタートした第四フェーズでも、スマートグリッドの未来型モデルとして脚光を浴びた。

立体町家を作り出すスケルトン

NEXT21 は一棟の集合住宅というよりも立体的に構成された一つの街と呼んだ方が良い表情をしている。廊下を道に、バルコニーを庭に、植栽を庭木になぞらえると、大阪の路地裏の町家が上下に積み重なって立体的な街を構成しているかのように見える。構造躯体だけでなく、道空間や緑地までもが街の骨格すなわちスケルトンとなって街全体を支えているのである。

マルチアクセス多面採光のインフィル

このようなスケルトンが作り出す立体的な街区の中にインフィル（住戸）が埋め込まれているわけであるが、道から各インフィルへのアプローチは北入り・南入り・東入り・西入りなど様々である。そして、緑も風も光もインフィルの方々の面から飛び込んで来る。

可変外壁クラディング

それまでに実現したオープンビルディングプロジェクトでは、インフィルの自由さは主張されているものの、外観はただのビルディングつまり箱の建築でしかなかった。そして、箱の部分はスケルトン

NEXT21 では、水回りの配管はスラブ上を水平に走って住戸の外に出て、街路の床下空間を通過して、巨大な縦シャフトへと落ちて行く。浮き床とスラブの間に配管の勾配を吞みこむ十分な懐を確保するスケルトンの断面上の工夫がある。ここに度重なるエネルギー実験を悠々とこなしてきた NEXT21 の秘密がある。

リフォーム実験

今回を含め計三回の大改修がこれまで実施されてきたが、これは一般のマンションに比べはば倍の頻度である。改修実験の柱である住戸のリフォームは今後実施予定のコンペ対象二住戸を含めると当初の一八戸中一一戸、つまり六割に及んでいる。

初期のリフォーム実験では新築時にルールとして機能した「外壁の移動」と「水回りの移動」が、リフォーム時にも有効に働くのが最大の焦点であった。

第三フェーズ・第四フェーズとリフォーム実験を積み重ねていくと、こうしたハード技術の実証的側面よりも、少子高齢化の流れの中で大きく変容してきた家族の受け皿としての住まいを根本的に問い直すソフト技術を探るリフォームへと大きく転換してきた。

大阪ガスが家族像を出題し住戸設計者がそれを住戸として解くという応答形式は NEXT21 の初期段階から続いてきている。大阪ガスの出題は年々難しさを増してきていて、住戸設計者は自然環境・近隣環境に対する開放系としての解と、省エネルギー性能を高い水準で達成する閉鎖系としての解の両方を満たすために思い悩むようになってきている。

ンと位置づけられていて、インフィル側がそれに手を下してはいけないものとして存在していた。これがオープンビルディングのルールなのである。

ところが、NEXT21 ではインフィル側がスケルトンの一部を動かすことができるようにルールを変更して、インフィル側に与えられる自由度が格段に拡張するように仕組みを変えてしまった。

NEXT21 のルールブック

「スケルトンを変える権限をインフィル側に与えている NEXT21 はオープンビルディングではない。」と言い切る二〇年来のオープンビルディングの海外メンバーも居た。オープンビルディングは、個人に対してインフィルの自由度を保証するものだが、集団が決めたルールを個人に守らせることはもっと大切だ、というわけだ。

NEXT21 がこのような古典的なオープンビルディングの殻を破ったことは画期的であった。ハブラーケン氏はむしろこの点を高く評価してくれた。

NEXT21 は厳格なルールでは無く、インフィル側の意向を柔軟に取り入れることのできるソフトなルールブックを作り出したのである。

ここで内田先生が主張したシステムズビルディングの考え方が大いに力を発揮した。つまり外壁をシステムとして作り、自由に動かしたのである。

外壁の設計システム

NEXT21 には二人の設計者がいる。一人はスケルトンの設計者、もう一人はインフィルの設計者である。（実際には設計はチームで行われ、スケルトンの設

見果てぬ夢ではなくなる日がくる

NEXT21 プロジェクトがスタートしてから一〇年が経って、二〇〇〇年に品確法の制定があった。スケルトンの長寿命化や設備配管の維持管理のルールは NEXT21 から受け継がれたものと言っても過言ではない。また、その後の一〇年を足した二〇年間に、多くの S I プロジェクトが生れ、NEXT21 は度々参照されてきた。

しかし一方で、NEXT21 は見果てぬ夢であるとして、別格扱いされることも少なくなかった。例えば階高について三、六〇〇という数字は未だに、目標とするにはあまりにも大き過ぎると言われていた。スケルトンにそれ程お金を掛けることはないとも言われている。

でもどうだろう、オフィスビルの空調システムが大変革を遂げ大部屋方式に切り替わった時に、新築ビルは続々と高い階高へと動いたではないか。

何時までも、現時点の市場原理だけが正しいと考えて、本当のユーザーニーズを見誤ってはいけない。都市のストックはあらゆる用途に開かれていべきだし、未来の設備開発にも備えるポテンシャルを持つべきである。

《参考文献》

1. 「NEXT21 フェーズⅣ」新築第二〇一三年八月号
2. 「NEXT21 その設計スピリットと居住実験一〇年の全貌」
3. 「建築設計資料一〇一号 S I 住宅／集合住宅のスケルトン・インフィル」建築資料研究社／二〇〇五年



立体町家のネットワーク図



エコロジカルガーデン (造園設計・写真提供江木剛吉)




NEXT21 外観 (写真提供大阪ガス)

謹賀新年 2014

建材・設備会社 他

住まいに、人に、安心を。
住宅情報相談センター
住宅相談・住宅情報提供・各種研修事業
住宅展示場の企画・運営
住宅性能評価機関・住宅保険取扱機関

 一般財団法人大阪住宅センター

大阪市中央区南船場四丁目4番3号
心斎橋東急ビル4階
事務局 06-6253-0071
<http://www.osaka-jutaku.or.jp>

建築物の質の向上と安全性の確保に貢献

 一般財団法人
日本建築総合試験所

理事長 辻 文 三

〒565-0873 吹田市藤白台 5-8-1
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784
<http://www.gbrc.or.jp>

一般社団法人
大阪空気調和衛生工業協会

会長 太田 隆

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-6-14 朝日生命辰野ビル2階
TEL 06(6271)0175 FAX 06(6271)0177


一般社団法人
日本建築材料協会

会長 立野 純三

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階
電話06(6443)0345(代)
FAX06(6443)0348

支部 関東・中部・中国・四国・九州
<http://www.kenzai.or.jp/>

学校法人 福田学園

 **OCT 大阪工業技術専門学校**
OHSU 大阪保健医療大学
OCR 大阪リハビリテーション専門学校

理事長 福田 益和

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995
URL <http://www.fukuda.ac.jp>

 あなたのデザインで
スマホケース
1個から!

ネットショップ営業中!
<http://chuwa.shop-pro.jp/>
中和 オンデマンド 検索

ツイッター
Facebook も更新中
「いいね」をお願いします

がんばれ
トライアンス!

 私たちは和歌山トライアンスも応援しています。

CHUWA 中和印刷紙器株式会社
〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53 TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188

 エレベーター・ダムウェーター
福祉機器

本社：大阪市西区京町堀1-12-20 TEL：0120-07-0570
<http://www.kumalift.co.jp/>

 石川工場

夢のレンガを積みあげよう

都窯業株式会社

大阪市北区西天満2-8-1 大江ビル
☎(06)6367-0389 FAX(06)6367-5567
miyakoyogyo@md.newweb.ne.jp

一企画から印刷までトータルにクリエイトしますー

株式会社 日報印刷

代表取締役 井上 務

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-16-7 TEL.(06)6445-6888

謹賀新年 2014


建材・設備会社 他

大阪ガス株式会社
リビング事業部 大阪リビング営業部

大阪市西区千代崎3丁目南2-37

TEL(06)6586-3241
FAX(06)6586-3259

ナイスジョイント
ステンレス製＝給水・給湯・冷温水配管用管継手

 オーエヌ工業株式会社

代表取締役社長 中村 政弘

■本社・工場 〒708-0015 岡山県津山市神戸466
TEL(0868)28-0171(代) FAX(0868)28-4254

低炭素化の防水仕様で環境へ貢献

■ピロウエルドE新熟工法 ■シグマートE


 日新工業株式会社

大阪支店 支店長 北村 克己

大阪支店：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-12-22
TEL 06-6533-3191(代表)

本社：〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4
TEL 03-3882-2424(代表)

Hyper-MEGA, Hyper-ストレート, HBM工法
NAKS, RODEX工法

 日本コンクリート工業株式会社

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目6番14号(NC芝浦ビル)
基礎事業部 ☎(03)3452-1081 FAX(03)3452-1125
大阪支店 〒541-0059 大阪市中央区博労町4-5-9(本町太平ビル)
☎(06)4963-6911 FAX(06)4963-6916
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-11-5(エステート名古屋ビル)
☎(052)581-0666 FAX(052)541-2530
四国支店 〒760-0022 香川県高松市西内町4-6(神原ビル)
☎(087)897-2984 FAX(087)897-2986

断熱・吸音・耐火材料

ロックウール工業会

理事長 矢野 邦彦

〒111-0052 東京都台東区柳橋2-21-13 東洋ビル4F
TEL.(03)5835-2569
FAX.(03)5835-2570
ホームページ：<http://www.rwa.gr.jp>

一般社団法人 大阪電業協会

会長 藤田 訓彦

大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル
電話(06)6363-4077(代) ファックス(06)6363-4079

INFORMATION

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

会員の皆様へ 「応急危険度判定士」資格取得のお願い

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。この機会に判定士養成講習会を受講され、本会判定士ネットワークへの登録をお願いいたします。

被災建築物の応急危険度判定養成講習会 2/19 CPD4単位

日程 2月19日(水)
時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(申込先着順)
受講資格 大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。
受講料 無料
テキスト代 1,500円(税込み)
申込先・問合先 一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

本会における既存建築物耐震診断等評価業務のご案内 ～平成26年1月初めより耐震評価業務を開始～

「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正による、広域緊急交通路の沿道建築物や不特定多数が使用する5,000㎡以上の大規模建築物などの耐震診断等の義務化等に伴い、本会は大阪府から耐震評価機関の指定を受け、有識者や実務者の委員で構成される「建築物耐震評価委員会」を設置しました。平成26年1月初めより耐震評価業務を開始しますので、ご利用していただきますようご案内します。

(業務内容)
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価
(対象建築物)
既存建築物で、公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。
(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の割引があります。
詳細につきましては本会ホームページをご覧ください。

平成25年度 建築士定期講習 3/26 CPD6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講

された方が対象です。なお、平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。
■日時・会場
3/26(水) 9:30～17:30
大阪国際会議場、定員300名
会場コード5C-54
■申込締切日
2/28(金) 申込書必着
※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。
※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料 12,900円(消費税込)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

実践建築スクール(大阪府知事指定講習) 木造住宅設計・監理コース 2/7～2/21 CPD18単位

本講習会は、これから木造住宅の設計・監理に取組もうとする建築士や、木造住宅の設計・監理技術のスキルアップを目指す建築士などをはじめ、建築士以外の建築技術者も対象にして全3日間で開催します。ぜひ木造住宅の設計・監理のスキルを身につけられ、日常業務にお役立て下さい。
日時 2014年2月7日、14日、21日の3日間
全日程とも(金) 9:30～16:50
会場 大阪府建築健保会館5階
内容 木造の基礎知識、基本設計、実施設計、地盤・基礎設計、軸組設計、耐風・耐震設計、確認申請、工事監理
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員15,000円、一般19,000円
テキスト代 3,000円(ひとりで学べる木造の壁量設計演習帳)

第59回大阪建築コンクール(隔年開催)募集案内 2/17～2/28

本コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰するものです。同時に行う波辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者を表彰します。
応募資格
大阪府知事賞部門
大阪府建築士会会員または大阪府在住もしくは在勤の者
波辺節賞部門
大阪府建築士会会員または大阪府在住もしくは在勤の者で完了検査済証発行日現在39歳以下である者
対象建築物 建物の種類・規模は問わない
2009年1月1日から2013年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物で建築位置が近畿二府四県であること
審査委員
委員長 本多友常(摂南大学教授)
委員(※50音順)

長坂 大(京都工芸繊維大学教授)
濱田 徹(鹿島建設株関西支店専任役)
平田 真(大阪府住宅まちづくり部 公共建築室室長)
松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)
萬田 隆(tmsd萬田隆構造設計事務所、大阪産業大学)

応募期間 2月17日(月)～2月28日(金)
(2月28日消印有効)
応募料 本会会員 1作品につき10,000円
会員外 1作品につき30,000円
※ただし、応募時に大阪府建築士会に入会申込及び会費入金をした場合は本会会員金額とします。
※詳細は、本会ホームページをご覧ください。
問合・提出先 本会大阪建築コンクール事務局

第42回会員作品展 募集のご案内

主催:(公社)日本建築士会連合会
全国の建築士会会員の創意と努力に満ちた建築作品を募集、連合会HPに掲載し、会員相互の技術を高めることを目的とします。その中から特に秀でた建築作品を「平成26年日本建築士会連合会賞」として、その作品の設計者である建築士会会員を表彰します。
■応募要項(抜粋)

- 応募対象
平成23年以降に竣工し、検査済証の交付を受けた建物で、その種類、規模等は問わない。応募時に建築士会の正会員である者に限る。
- 応募締切 2月21日(金)[当日消印有効]
- 提出先 日本建築士会連合会
- 作品審査委員会
委員長 村松映一
(株村松映一建築計画室主宰)
委員(50音順)
石山修武(早稲田大学教授)
岸 和郎(京都大学教授)
櫻井 潔(株櫻井潔建築設計事務所・ETHNOS代表)
鈴木博之(青山学院大学教授)
竹原義二(無有建築工房代表)
難波和彦(株難波和彦・堺工作舎代表)
松川淳子
(株生活構造研究所取締役特別顧問)
※応募の詳細については、連合会HPをご覧ください。

問合 (公社)日本建築士会連合会
Tel.03-3456-2061 Fax.03-3456-2067
http://www.kenchikushikai.or.jp/

本会の催し参加申込方法

本会ホームページのWEB申込サイトからお申し込み下さい。FAX・郵送の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっています。

問合・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

大阪府温暖化の防止等に関する条例等の一部改正案に対する府民意見等の募集について

大阪府では、建築物の新築・増改築に際して、さらなる再生可能エネルギーの導入や、省エネ化を促進するべく標記条例及び規則を改正します。内容は、延べ面積2,000㎡以上の建築物を新築・増改築する場合、太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入検討を義務化します。
募集対象項目
大阪府温暖化の防止等に関する条例等の一部改正案について

募集期間 平成25年12月25日(水)～平成26年1月23日(木)
提出方法 インターネットの専用フォームまたは郵便、ファクシミリでご提出ください。
問合 大阪府住宅まちづくり部建築指導室審査指導課建築環境・設備グループ
Tel.06-6210-9725(直通)

平成25年度大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会(第二弾)開催

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・実物大カットモデルを活用し分かりやすく解説します。
講習会日程 下記日程のうち、いずれか1日
講習会時間 10:00～17:00
講習会費用 1,000円(受講料)+別途修了証発行手数料

会場① 花博記念公園ハウジングガーデン センターハウス2階
大阪市鶴見区焼野1-南2
会場② 大阪木材会館6階大会議室
大阪市西区新町3-6-9
西長堀駅より徒歩2分【専用駐車場なし(周辺の有料駐車場をご利用ください)】

会場①日程 1/9(木)、1/16(木)
会場①定員 35名
会場② 大阪木材会館6階大会議室
大阪市西区新町3-6-9
西長堀駅より徒歩2分【専用駐車場なし(周辺の有料駐車場をご利用ください)】
会場②日程 1/19(日)、1/26(日)、2/2(日)
会場②定員 80名
主催・問合 大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073
小角(こすみ)・寺尾

※詳細はHP(http://www.shoene.org/)もしくは上記問合先へお問合せください。

「設計者向け初開催」 平成25年度大阪府住宅省エネルギー設計技術講習会開催

木造戸建住宅を対象に、省エネルギー住宅の設計計画及び設計性能を実現するための施工技術の重要性について解説を行うとともに、省エネ性能の評価方法として改正省

このINFORMATIONページの詳細は本会ホームページにも同時掲載しており、ホームページから直接予約することができます。
下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)
【大阪府建築士会ホームページ】 http://www.aba-osakafu.or.jp/

エネ基準に基づく省エネ計算方法の解説と演習を行います。
講習会日程 下記日程のうち、いずれか1日
1/22(水)、1/30(木)、2/6(木)、2/9(日)、2/12(水)、2/19(水)
講習時間 10:00～17:00
会場 大阪木材会館 6階
大阪市西区新町3-6-9
※地下鉄西長堀駅より徒歩2分【専用駐車場はありません。周辺の有料駐車場をご利用ください】
費用 1,000円(受講料)+別途修了証発行手数料
主催・問合 大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073
小角(こすみ)・寺尾

※詳細はHP(http://www.shoene.org/)もしくは上記問合先へお問合せください。
特別賞などを加え、約20点を予定。
詳細はHPをご覧ください。
問合 日本木材青壮年団体連合会木材活用コンクール事務局 Tel.03-5620-4806
http://www.mokuseiren.jp

日本建築学会近畿支部主催シンポジウム「建築構造デザイナーの設計シーズン発想から展開まで」

新進気鋭の構造デザイナー達が温めている設計の手持ちネタとその発想から展開までの過程を披露していただき、建築を学ぶ学生、若手技術者らを巻き込んで、これからの建築・ストラクチャーの在るべき方向を考えてみたいと思います。
主催 (一社)日本建築学会近畿支部
共催 (一社)日本建築構造技術者協会関西支部
日時 1月27日(月) 13:30～17:30
会場 京都工芸繊維大学60周年記念館1階記念ホール
京都市左京区松ヶ崎橋上町(松ヶ崎キャンパス内)

内容
1.「アトリエ系の構造デザイナーとして」
満田衛資(満田衛資構造計画研究所)
2.「形態を発想の源泉としている建築家として」
橋本一郎(エス・キューブ・アソシエイツ)
3.「組織系の構造デザイナーとして」
加登美喜子(日建設計)
4.「教育・研究機関の構造デザイナーとして」
永井拓生(滋賀県立大学)
5.パネルディスカッション
定員 200名(申込先着順)
参加費 2,000円(資料代含む・当日徴収)
※主催・共催・協賛団体とも同じ
問合 (一社)日本建築学会近畿支部
Tel(06)6443-0538

講習会「合成構造設計規準ならびに鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準」(大阪開催)

日本建築学会刊行の「合成構造設計規準」「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」(改定)の主要内容を適確に把握していただくための講習会です。
日時 2月4日(火) 10:30～16:40
会場 大阪科学技術センター8階中ホール
大阪市西区靱本町1-8-4
定員 200名
参加費 大阪士会会員15,000円(テキスト代含)
テキスト 「合成構造設計規準」「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」(改定)

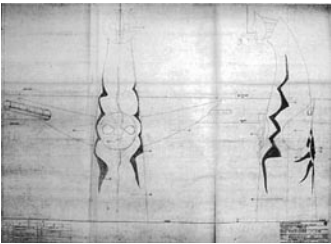
問合・申込 (一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

図面でひも解くEXPO'70「テーマ館」

日本万国博覧会(大阪万博)のテーマ「人類の進歩と調和」を具現化したテーマ館。本展では太陽の塔をはじめとした、200点以上の図面や写真を中心に展示し、テーマ館の全容をひも解く事で大阪万博の本質に迫ります。
主催 (一社)関西環境開発センター
期間 開催中～2月2日(日)
会場 万博記念公園自然文化園内
EXPO'70パビリオン
入館料 大人400円 中学生以下無料
休館日 12月以降の水曜日・年末年始
問合 EXPO'70パビリオン
Tel.06-6877-4737
http://www.bnmkc.or.jp/expo70paviion/

大阪歴史博物館 特集展示 近代建築の記憶

大阪では、明治・大正・昭和初期の各時代、都市の発展にあわせて優れた近代建築が数多く建てられました。近年、これらの近代建築が注目を浴びる一方、建て替えられるケースも増えていきます。その中には、古い建築の部材やデザインを新しく建てられる建築の一部に取り入れる試みも見られます。大阪歴史博物館では、建築を次世代に伝えるため、建築の忘れ形見ともいえるステインドグラスやテラコッタの装飾など、特徴的な一部分を収集しています。今回の展示では、これまで同館が収集した近代建築の一部分を中心に、関連する資料を交え、近代建築の魅力とその記憶の継承について紹介します。
会場 大阪歴史博物館8階特集展示室
日時 開催中～2月3日(月)
9:30～17:00(金曜20:00まで)



図面でひも解くEXPO'70テーマ館 太陽の塔図面

※入館は閉館30分前まで
観覧料 大人600円
(常設展示観覧料でご覧になれます)
休館日 火曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
■学芸員による展示解説
日時 1月13日(月・祝)、1月25日(土)、2月1日(土) 14:00～30分程度
講師 酒井一光(同館学芸員)
会場 大阪歴史博物館 8階特集展示室内
参加費 無料(ただし、入館には常設展示観覧券が必要)
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
■朝日ビルディング群記録映像上映会&トークショー
日時 1月18日(土) 13:30～16:00
受付 13:00より
上映映像 「関西の歴史建築 vol.6 朝日ビル」
伝統の継承と進化」(若林あかね作)
■トークショー 参加者 泉川渾洋、後藤俊明、若林あかね、酒井一光
会場 大阪歴史博物館 4階講堂
定員 250名(当日先着順)
参加費 500円
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
問合 大阪歴史博物館
Tel.06-6946-5728

大阪市立東洋陶磁美術館 国際交流企画展「定窯・優雅なる白の世界―窯址発掘成果展」

定窯窯址の出土品66点を日本で初めて紹介します。
会期 開催中～3月23日(日)
時間 9:30～17:00(入館は閉館30分前まで)
休館日 月曜日、1/14、12/28～1/4
(1/13は開館)
観覧料 800円
問合・会場 大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市北区中之島1-1-26
Tel.06-6223-0055

http://www.moco.or.jp



大阪市立東洋陶磁美術館国際交流企画展 白磁刻花童子唐草文方形双耳盒 河北省文物研究所蔵

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十二月十三日(金)十六時～十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事三四名、監事二名、顧問他六名

(1) 会計報告の承認

十一月末日の当期経常増減額は、収益一〇一、
一四二、三九四円、費用八九、五一五、八一
八円、増減一一、六二六、五七六円を報告し
て承認された。

(2) 収支報告(決算見込み)

現時点での決算見込みは収支差引約二六万
円の予測となることを報告した。

(3) 建築物耐震評価業務について

大阪府は沿道中心に約七〇〇棟を三年内に
評価する必要がある、後発の本会は周知強
化や評価書交付期間の短縮等で受注を伸ば
すことに努めるとした。手数料設定は会員割
引によって若干安い印象があり、評価委員
の構成も充実しているという意見があった。

(4) 候補者選考委員会の検討報告

理事減数を前提に、二期目理事は退任、一
期目理事・監事は二期目に継続することを
原則とした。結果、副会長は四人体制、常
任理事として新規三名を招聘することを報
告した。留任(理事二一・監事二)に継続・
新規の候補者(理事一六・監事二)として、
次年度に向けて理事三八・監事二の役員四〇
名体制を目指すことが承認された。継続・新
規の次期候補者に内諾を得たうえで、一月
度委員会で理事監事推薦候補者を承認する。
(5) 建設専門新聞各社に建築物耐震評価
業務を開始すること、巨大地震に備えた研
究機関を発足させたことなどを発表した。
(6) 近畿建築祭(12/7)を成功裡に開催
できたことで関係各位のご協力に感謝した。

建築相談

建築士の見たトラブル事例(十七)

シックハウスと化学物質過敏症

編・文 橋本頼幸

今月の「建築相談コーナー」は、相談員の羽木み
どり様に原稿をいただきました。市販品はF☆☆
☆☆製品がほとんどになり、常時換気扇も義務
づけられたことから、世間では室内空気質問題はあ
まり騒がれなくなりました。一方で今現在もシック
ハウスや化学物質過敏症に悩む人がまだまだいま
います。そんな話題を掘り下げていただきました。

最近、化学物質過敏症が増えてきているよう
で、士会でも建築相談を受けることがあります。
化学物質過敏症(CS)とは非常に微量な化学
物質に反応し、多義にわたる症状を引き起こす疾
患で、TVのフレームに使っているプラスチックです
ら反応される方もおられます。

また、化学物質ではありませんが、同じような
症状を引き起こすものとして、電磁波過敏症もあ
り、双方の疾患が重なっている方も結構見うけら
れます。

CSは、シックハウス症候群の悪化によるものが
多く、発症原因の半数以上が、室内空気汚染から
といわれています。

自宅や職場、学校などの新築、改修、改装で使
われる建材、塗料、接着剤から放散される、ホルム
アルデヒド、揮発性有機化合物(VOC)ばかりで
なく、室内で使われる家具、殺虫剤、防虫剤や、喫
煙なども室内汚染を引き起こし、CSの発症原因
になっています。

症状としては、目、耳、鼻、のどの疾患から、皮
膚、内臓、筋肉、神経、精神疾患に至るまで、本当
に多種多様で、個人差も大変大きい疾患だとい
えます。

このようなCS患者の住宅を造ることの難しさ
は、色々な話を聞く度に痛感させられます。

最近の建築材料は見えないところにも化学物
質が使われていることが多いので、症状を引き起こ
さない家を作るということは想像以上に困難を要
する作業になるようです。

自然素材を一つ吟味し、サンプルをしばらく
手元に置いて、材料に過敏反応が出るかどうか確
かめながら、慎重に進めていかねばなりません。し
かし、慎重の上に慎重を期して選んだ材料でも、
実際に現場で使ってみるとうまくいかない場合も
出てくるらしいのです。

本当に手探り状態で、許容できる空間を手に入
れないといけないわけで、これが正解というもの
がありません。

そして、それらの症状を持つ方々にとっては、何
かにつけ、現代の環境下で生きていくこと自体が
とても大変なものになっているようです。

「シックハウス症候群」が多発して社会問題化し
たことから、厚生労働省は、室内空気の化学物質
濃度に指針値を設け、二〇〇三年七月には改正
建築基準法が施行され、シックハウス症候群予防
のための法規制が始まりました。

しかし、それは小手先の対処法であり、十分な
問題解決に至っていないのが現実です。

私たちは人間のエゴを優先して、目先の利便性、
快適性ばかり追求してきましたが、その一方で、本
来あるべき姿を見失ってしまったのではないのか
でしょうか。

地球上のすべての生命はそれぞれ循環しながら
バランスをとっています。そして、人間は自然の一部
であり、そのバランスを崩し、孤立した社会では生
きられません。この「CS問題」は、私たちの社会の
ひずみに対する警鐘ではないのかと思えてなりま
せん。

編集後記

筑波幸一郎・荒木公樹・牧野隆義

新年号の「建築人(けんちくびと)」は
一度立ち止まり、これまでの二年間を振り
返る機会となりました。七人の建築人との出
会いを、インタビューという形でまとめて
しました。三ヶ月ごとのインタビューでは、
校了するやいなや、次の準備に入る必要が
あり、スタッフは息つく暇ありません。
それでも、「建築人(けんちくびと)」は
スタッフにとって大変貴重な機会であり、
その場にいなければ感じ得ない空気感があ
ります。お世話になった建築人の皆様に改
めてお礼を申し上げます。

建築界では、消費税引き上げ前の駆け込
み需要や、東京オリンピック開催の盛り上
がり、関西で活動する人間にとって気にな
るところです。忘れてはならないのが、
福島の問題です。これまでの日本が遭
遇しなかった課題に直面していることを考
えると、正しい情報の必要性を痛感します。
特定秘密情報保護法の行く先も大きな懸念
を抱かざるを得ません。情報を正確に分か
りやすく伝える。当たり前のことですが、
守らなければならない大切なことだと編集
人の端くれとして感じています。



和形黒燻瓦

「オリジナルの金型も数万円から作るこ
とができるので少量のロットでも製作可
能」とのこと。軒巴瓦のデザインを始め、細
かい所でオリジナリティを発揮することも
可能です。

この、塗っている訳でなく自然に焼いての
「均一な真っ黒の素材には、設計者として
心くすぐられるのを感じます。ぜひ実物サ
ンプルを請求してご覧ください。

■淡路瓦のお問い合わせ先
淡路瓦工業組合
兵庫県南あわじ市湊134
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030
info@a-kawara.jp
http://www.a-kawara.jp/

淡路瓦イズム 『漆喰が映える瓦』

栄和瓦産業株式会社

<http://www.eiwakawara.com/>

取材：中間伸和／建築情報委員会委員

400年の歴史を持つ淡路瓦は「淡路瓦イ
ズム」を通し、これからの時代に社会から
必要とされる瓦づくりに挑戦しようと考え
ています。今年も淡路瓦イズムを実践して
いる会社を紹介しています。

今回は淡路の窯元85社の中でも新しい
考え方を取り入れて製品の開発に努力を注
いでいる栄和瓦産業(株)です。

「漆喰を使っている建物で漆喰が映える
瓦です」と「黒燻(くろいぶし)」の特徴を語
る栄和瓦産業(株)の濱口社長。この商品
の研究開発から商品完成までは試行錯誤
の繰り返しだったそうです。

一般にいぶし瓦は1000度で焼いてその
後「燻化」させて出来上がる。しかしこ
の「黒燻」は、高温の1080度まで焼きし
め、その後冷まして900度で「燻化」、炭素
膜を作り、そのまま600度まで来た時に一
気に空気を入れて表面の炭素膜を燃やすこ
とによって二度焼き状態となり、土の中深
く焼き込まれることにより完成する。

「この、はじめの焼く温度が重要で、
1000度ではダメで。淡路瓦は低温で焼くの
が特徴ですが、淡路の土の限界を超え1080
度で焼くこと、その後の空気を入れての二度
焼きも600度でなければなりません。そうし
ないと、安定した状態で焼き上がりませ
ん。」とのこと。まさに、陶芸家や刀職人な
どの技の話を聞いているようであった。

淡路の土は鉄分が多く、一般的ないぶし
瓦は鉄錆びが出ることもあるが、この「黒
燻」は鉄分が二度焼きされることで安定し
た四酸化三鉄(黒錆)の状態となり、その結
果、弱点であった寒さにも強い性質を手に入
れることができ、またキズが付きにくい
「黒つや消しの自然の瓦」に仕上がった。

完成までは、研究着手から約4年かかっ
たとのこと。

「黒燻」の、新しいのに、数十年の経年
変化した古瓦のような風合いは、日本家屋
の屋根葺き替えや、古建築の修復等に使用
されることも多いですが、「黒艶消し」の特
徴を活かして新しい感覚の和風建築へも使
用方法は広がります。



柊木の家

この地域は敷地の区画が大きく、道路より後退して家並みが続く緑が根着いた住宅地である。その一画を購入され、東西は隣家の庭に面し、南面は道路より1メートル程度の高低差があった。親子3人の住まいに、和室と車2台分の車庫との要求から計画を始めた。

道路からの高低差を生かすこと、近隣の視線を調整し開放的であること、30%という厳しい建蔽率、これらの条件を満たすべく、平面計画を繰り返した。

道路に面した車庫の上に和室をのせる事で道路からの顔とし、日々の生活は北側に配した。アプローチは東側階段をつたい玄関へと導き、玄関ホールを和室と居間寝室との繋ぎの空間とした。コの字型平面の中庭を西側に開放させて午後からの光を取り入れ、風を誘い入れる。北側の2階建の中央は吹抜け空間で、それにつながる階段と渡り廊下から、中庭と和室屋根越しに遠く大和の山並みへと視線が広がる。時と場所により、見え方の異なる景色を味わうことが出来る。

中庭をはさみ居間の景色として存在する南側の和室は茶室のような窓を持つ。南道路からの視線を考え、天井際に窓は配され、東側の床脇には隣家の木々を越して遠望する窓を配し、西側は外待合からの入り口と木々を眺める窓、北側は中庭を介して居間へと視線が繋がる。ガラスを多用した変化に富んだ構成で、軽やかな透けの空間である。中庭から飛び石伝いに露地を上り、柊木屋と水盤を見ながら待合腰掛けへと導かれる、高低差と視線の変化が奥深さを感じさせ、やがて植物も育ち、市中の山居となればと思う。

撮影：松村芳治



■建物データ

設計：木原千利設計工房
施工：株式会社SEEDS・CASA
所在地：奈良市
用途：住宅
竣工：2009.8

構造規模：木造一部RC造
地下1階地上2階建
敷地面積：404.40㎡
建築面積：121.00㎡
延床面積：206.16㎡